

大前提である。こうした前提が欠けると、仕事への意欲を減退させることになりかねないであろう。

第四に、現在、ホワイトカラー労働者への裁量労働制の拡大が検討されている。現行規定では、専門業務型と企画業務型に限定されているが、この拡大が企図されている。長時間労働やサービス残業が少なくなく、適正な労働時間規制が不十分である中で裁量労働制が拡大されると、過労死や過労自殺の増加が懸念される。

四 若干の課題

最近、フリーターやニートに対する関心が高まり、日本版デュアル・システムなど若年者雇用に対する政策が強化されている。若者に内在する問題は労働法制だけで解決できるものではない。まず社会全体が若者を育てることの重要性を再確認する必要がある。そして、企業の「社会的責任」として職場を確保するとともに、安心して働ける労働条件の保障が重要である。

これに関連して労働法に課せられた課題は多くある。重要な点のみ指摘すると、第一に、パートタイマーや派遣労働者の労働条件を正規労働者と同等にすることである。ヨーロッパでは、均等処

遇を法律で保障する国が少なくない。

第二に、労働契約内容を明確化することである。あいまいな合意内容であるために、後に紛争を生じる場合が多い。現在、労働契約法制定に向けた審議がなされているが、これは内容の明確化に資すると考えられる。ただし、解雇の金銭的解決制度の導入など問題がある規制も検討されており、わが国の労使関係を踏まえた内容となるかに注目すべきである。

第三に、若者に対して労働法の知識を習得させることである。これが不十分なために適切な救済を得られない場合が少なくないであろう。このためには、「職場の法律知識」を高校や大学などでのカリキュラムに組み込むことが求められる。

第四に、紛争が発生した場合に簡易かつ迅速な解決を図る制度を充実させることである。来春にスタートする労働審判制が制度の趣旨通りになるかには、実態を熟知し、かつ公正な判断を下せる労使の審判官の確保などの課題があるが、うまく機能すれば、労働者の権利擁護に資し、賃金、労働時間などで不満の多い若者の救済に役立つであろう。



石川県若者しごと情報館
ジョブカフェ石川 センター長
植村 まゆみ

若者の可能性と就職支援

■ジョブカフェ石川とは？

カフェ感覚の気軽な雰囲気、35歳未満の若者が、就職に関する様々なサービスを受けられるジョブカフェ石川が、県広坂庁舎1階の若者しごと情報館にオープンして約1年が経ちました。

このジョブカフェとは、高い若年者失業率や早

期離職率など、若者の雇用問題の改善を目的として、平成15年に国が策定した「若者自立・挑戦プラン」の中核的施策に位置付けられたもので、地域の実情に合った若者の職業能力向上と就職促進を図るため、雇用関連サービスを1ヵ所でまとめて受けられるワンストップサービスセンターのことです。現在ほぼ全都道府県に設置されていますが、中でも石川県は北陸三県で最初に経済産業省のモデル地域に指定されています。

■ジョブカフェのサービスと利用状況

ジョブカフェでは、ジョブサポーター(キャリアコンサルタントの資格を保有)による個別相談のほか、自己PR、応募書類、模擬面接など就職準備のための対策講座の開催や、県内企業で働く

社会人の先輩から、業界のことや仕事の苦勞・やりがい等を聞く座談会形式の「しごと研究会」、ビジネスマナーやコミュニケーションを学ぶ「社会人基礎力養成講座」など、併設するヤングハローワーク金沢とも連携し、様々なメニューで若者の就職活動を支援しています。

加賀(小松市)・能登(七尾市)にあるサテライトも含めた利用者数は、8月末現在で延3万5千人、相談者数は延1万4千人を数えており、このうちヤングハローワークとの連携も含めて就職決定に至った若者は2千人を超えています。

相談者の内訳は、20代が65%と最も多く、ついで10代が20%、30代前半までが15%、相談時の状況は、無職36%について、学生33%、在職中19%、フリーター12%となっています。



カフェ感覚で気楽に個別相談

■なんの仕事をしたらいかがかわからない

相談内容の多くは「就職はしたいが、なんの仕事をしたらいかがかわからない」「自分のやりたいことがわからない」というもの。現代の若者の仕事や職業に関するイメージが、非常に希薄であることを実感します。世の中にどのような業界があるのか、どんな仕事内容なのかといった大まかなイメージすらない人も少なくありません。そんな状態ですから、いざ就職活動を始めるといっても、自分自身の興味・関心の認識が薄くて、どんな仕事に興味があるのか、どういう職業についてみたいのか整理することができません。

また、就職活動はしているものの、「面接になかなか受からない」と駆け込んでくる方もかなりいらっしゃいます。ほとんど準備らしい準備をせずに面接に向かって失敗し、自信喪失になり悪循環に陥ってしまっていることが多いようです。

さらに、働いた経験はあるものの、「思ってい

たイメージと違っていた」「人間関係でつまずいた」などの理由で次を考えずに安易に辞めてしまい、その後どうしていいかわからないという方もいらっしゃいます。

■ジョブカフェのサポート内容

ジョブサポーターは、個別カウンセリングはもちろん、必要に応じてグループカウンセリング等の手法を用いながら、おおむね次のようなステップでそれぞれの就職活動をサポートします。

1. 自分を知る－自己理解・自己分析：自分の能力適性、興味関心を正しく理解する

学生時代や過去を振り返り、取り組んだことや達成感を得たことなどを洗い出し、価値観を整理する。

2. 仕事を知る－職業理解：希望する職業や職種の理解、その仕事に就くために必要な情報を自ら調べる

自分の興味を満足させ、長所を生かせる仕事はなにか、いつまでに就職をしたいのか、現実に直面させ、自ら目標設定させる。長期的な見通し＝キャリア・プランを考える。

3. 応募書類／面接対策：応募先へのエントリーシートや履歴書の作成、面接訓練

自分の言葉で履歴書の「志望動機」を書く。面接の際に、きちんと「自分を語る人」に仕上げる。

ジョブサポーターによれば、自分なりにやりたいたことがはっきりしている人、これまでの自分の経験を肯定的に表現できる人は、就職活動が順調に進むことが多いようです。逆に、例えば学生の場合、学生時代を振り返らせても語るべき中身がこれとってない人は、自己PRを考える場合にひと苦勞するようです。

■現代の若者の傾向

オープン以来1年、多くの若者のサポートをしてきて、現代の若者の気質や傾向が少しずつ見えてきました。あくまでも私見ですが、現時点で感じることをまとめてみたいと思います。

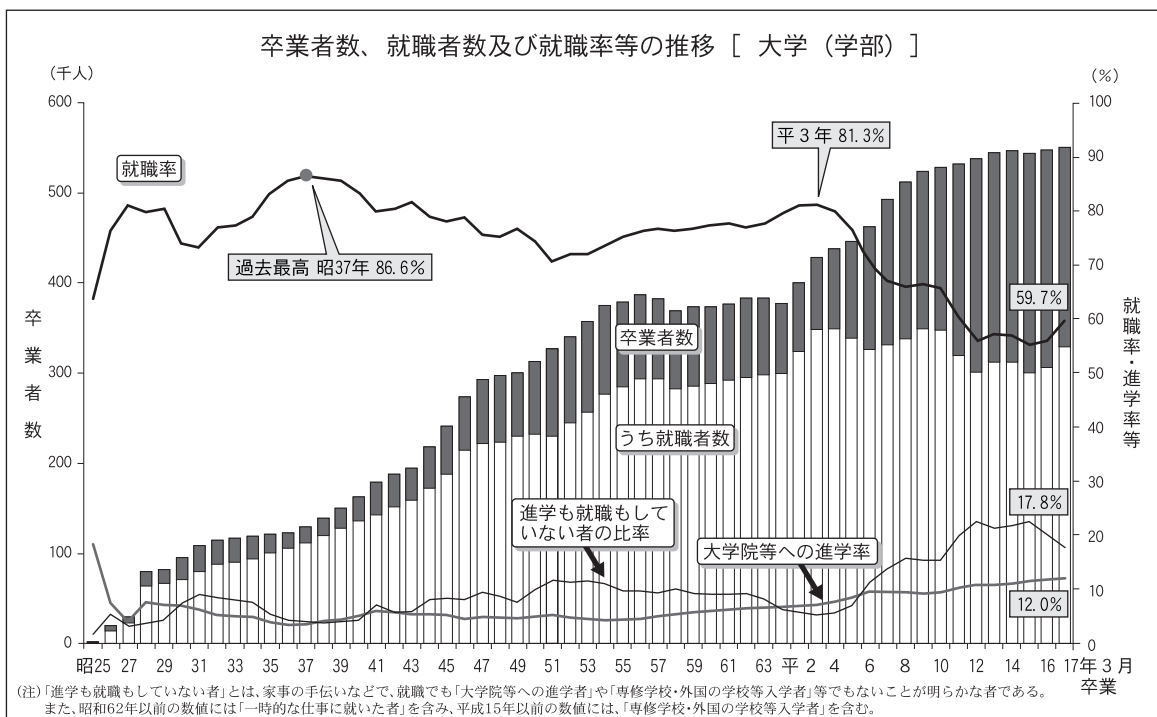
1. 完璧な正解を求めすぎている：自分にとって完璧な正解を求めすぎて、かえって動けなくなっている若者が多いようです。完全に自分にぴったりの仕事なんて、就職の入り口でわかるわけが

ないのに、どこかに自分に向いている仕事があって、そのうちにその仕事が空から降ってくると思っているのかおもしろい仕事が最初からあるわけではない、一所懸命取り組んだ結果、それなりの達成感が得られて、そして初めておもしろいと思えるようになるものはず。ある程度の方向性が見えたら、まずは動いてみるのが大切なのに、もどかしく感じる事が少なくありません。

2. とりあえず先延ばしする：自分のやりたいことが見つからないから、とりあえず進学する、資格を取る、あるいは、とりあえずフリーターでいい。自分の興味を満足させ、長所を生かせる仕事はなにか、自分で判断し、決断できないから、社会へ飛び込む一歩が踏み出せない、そんな若者が増えています。そして、そんな若者を許している親の姿も見え隠れします。フリーターとかニートなどという呼称が生まれたことで、かえって若者には、どこにも属さないという逃げ場を与えてしまったのではないのでしょうか。働くことがすなわち生きることそのものであること、経済的自立のうえにしか精神的自立は成り立たないことを、もっと周りの大人が教えるべきではないかと思えます。安易にフリーターとして職場を転々とした結果、それなりの歳になって正社員になろうとしても、企業は認めてくれないのが現状です。

3. リアルな情報の不足：インターネットの普及による良し悪しを実感することが多々あります。自分には直接つながりのない著名人、あるいは一部の人しか入れない大企業の情報をインターネットで入手して、あたかもそのようになれると思っているふしがあります。同時に、家庭や地域社会の情報を全く得ていないことにも気づきます。私の子供時代には、まだ周囲には魚屋さんあれば米屋さんもある、鉄工所もある、同級生のお父さんの仕事・商売はこれ・・とわかりやすかった気がします。商店は大型量販店やコンビニエンスストアに代替され、工場は郊外の団地に移転してしまい、若者の生活は、目に見える仕事からどんどん切り離されてしまいました。仕事や職業のことを知らないのも当然なのでしょう。

4. コミュニケーション下手：大手から中小企業まで人事担当者のどなたに聞いても、採用のポイントは「挨拶ができること」。挨拶は良い人間関係を形成するためのコミュニケーションの基本だからです。会社の仕事は一人では出来ません。就職すること＝チームの一員になることです。昨今のような変化の激しい時代には、顧客にも認識できていない潜在ニーズを、いち早く察知して対応していかねば企業は生き残っていきません。そんなときに欲しい人材は、社内外で、いろんな世



文部科学省ホームページより

代の人と円滑な人間関係をつくれる人。学生時代まで、同年代の居心地のいい人間関係のみで過ごしてきた若者は、この「縦」のコミュニケーションに慣れていません。まず、就職試験の面接の場で、立ち止まってしまう若者も少なくありません。

■大人のひとりひとりに責任がある

こうした傾向を「いまどきの若者は・・・」と批判的にだけとらえるのは間違いです。彼らが育ってきた社会をつくってきたのは「大人」なのです。フリーター増加の発端を作ったのも、不況に耐えるための企業の論理であることは間違いありません。また、学力偏差値重視で、望ましい職業観、就労観に繋がりにくい教育を施してしまったのも、挨拶を習慣にできなかった家庭での躾の不足も、すべて「大人」の責任です。社会の大きな変化のなかで、これまでのシステムが機能不全を起こし、そのあおりをまろに受けているのが現代の若者だといえます。

また、20代前半の若者が生まれた1980年ごろの日本は、高度成長期を経て、バブル景気に移行する頃です。彼らは「豊かさ」を前提に育ってきた世代といえます。「大人」が生きてきた背景や経験とは全く異なる育ち方をしてきたわけですから、「大人」が当たり前と思うことが、彼らにとってはそうではないということ、を、「大人」が理解しなければ、いつまでたっても平行線です。

「大人」には「若者」を育てる義務があります。「大人」のひとりひとりが、他にその責任をなすりつけることなく、当事者意識を持って、この深い社会問題に取り組む必要があると思います。

■新しい時代を担うのは若者

ジョブカフェでは、晴れて就職が決定した若者に、ひとことメッセージを残してもらい、壁に貼出しています。このメッセージが1枚ずつ増えていくのが、我々スタッフの喜びです。

「孤独な就職活動を孤独なものではなくしてくださいました。1回1回のカウンセリングは自分を見つめなおす、とても貴重な時間でした。ジョブカフェには就職活動を勝ち抜く"力"をあたえてもらいました。本当にありがとうございました。これから就職活動をする皆さんも、つらいことが

たくさんあるとは思いますが前向きにがんばって下さい。」(20代男性)

「就活の基本セミナーを何度も受講して、社会人としてのマナーを習得したお陰で、面接で緊張していても挨拶や礼儀だけはきちんと出来たと思います。ジョブカフェを利用して内面も行動にも自信が持てるようになりました。ありがとうございました。立派な社会人になれるように頑張ります！」(20代女性 学生)

「大学を卒業しても、就職していない自分が嫌でした。学校の友達みんな就職しているし、マイナスな自分だった。でも、ジョブサポーターによる個別相談や、それまでやることができなかった自己分析などで少しずつ自分のやりたい事や自信がついていき、最終的には自分がやりたい仕事に内定でき、ジョブカフェに来てよかったと思っています。本当にありがとうございました。」(20代男性)

「フリーター生活が長かったのですが、就職することができました。ジョブカフェに相談に来て良かったと思っています。スタッフの皆様、本当に有難うございました。」(30代男性)

ちゃんと理解して見つめてあげれば、背中を押してあげれば、若者は確実に巣立っていきます。日本の新しい時代は、若者が勇気を持ってチャレンジしてくれば、確実に開けてくると信じています。そのために、これからも、企業、学校、地域社会と若者の橋渡しを担いながら、一人でも多くの若者が、社会人として自立する覚悟を持って就職できるように、スタッフ一同、ますます努力していきたいと思っています。



就職決定者からのメッセージ